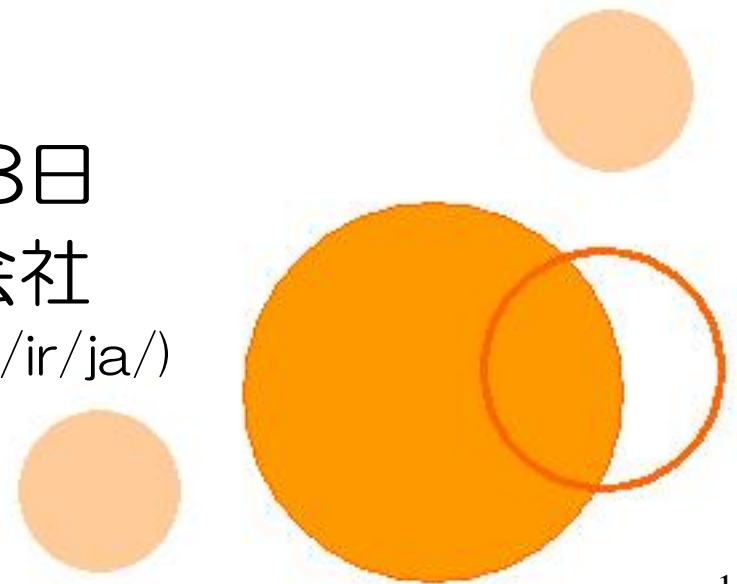


# 2006年3月期 第1四半期決算概要

2005年7月28日  
日本電気株式会社  
(<http://www.nec.co.jp/ir/ja/>)



### <将来予想に関する注意>

本資料には当社および連結子会社(以下NECと総称します。)の戦略、財務目標、技術、製品、サービス、業績等に関する将来予想に関する記述が含まれています。将来予想は、NECが証券取引所や米国証券取引委員会等の規制当局に提出する他の資料および株主向けの報告書その他の通知に記載されている場合があります。NECは、そのような開示を行う場合、将来予想に関するセーフハーバー(safe-harbor)規則を定めている1995年米国民事証券訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)その他の適用法令に準拠しています。これらの記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、そうした仮定やデータ、方法は必ずしも正しいとは限らず、NECは予想された結果を実現できない場合があります。また、これら将来予想に関する記述は、あくまでNECの分析や予想を記述したものであって、将来の業績を保証するものではありません。このため、これらの記述を過度に信頼することは控えるようお願いいたします。また、これらの記述はリスクや不確定な要因を含んでおり、様々な要因により実際の結果とは大きく異なりうることをあらかじめご承知願います。実際の結果に影響を与える要因には、(1)NECの事業領域を取り巻く国際経済・経済全般の情勢、(2)市場におけるNECの製品、サービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供し続けていくことができる能力、(4)NECが中国等の海外市場において事業を拡大していく能力、(5)NECの事業活動に関する規制の変更や不透明さ、潜在的な法的責任、(6)市場環境の変化に応じてNECが経営構造を改革し、事業経営を適応させていく能力、(7)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等があります。将来予想に関する記述は、あくまでも公表日現在における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、NECがこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する経営陣の現在の推定を表すものではなく、NECが事業戦略を遂行することにより経営陣が達成しようと努める目標を表すものです。

本資料に含まれる記述は、証券の募集を構成するものではありません。いかなる国・地域においても、法律上証券の登録が必要となる場合は、証券の登録を行う場合または登録の免除を受ける場合を除き、証券の募集または売出しを行うことはできません。たとえば、米国において証券の公募が行われる場合には、1933年米国証券法に基づく証券の登録が行われ、NECおよび経営陣に関する詳細な情報ならびに財務諸表が掲載された英文目論見書をもって公募を行うこととなります。

- \* 本資料で使用している「営業利益」および「営業損益」は、日本基準に基づき表示しております。
- \* フリー・キャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計です。
- \* Net有利子負債は有利子負債から現金および現金同等物を控除しています。
- \* 「iモード」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

# 総括

06年3月期経営課題：業績回復策を着実に実行し、  
成長に向けた取組みを強化

1Q営業損益：  
期初想定比改善

- IT、NWが堅調
- 半導体が低迷

上期：  
グループ全体の経営努力で  
営業利益150億円達成見込

- ソリューション事業の  
成長戦略実行
- モバイルターミナル事業の  
着実な回復
- NECグループのバリュー  
チェーン強化

## 2006/3期 第1四半期実績サマリー

(単位: 億円)

	05/3期 1Q実績	06/3期			
		1Q実績	前年 同期比	上期 予想	前年 同期比
売上高	10,562	10,009	-5.2%	22,500	-2.3%
営業利益 (売上高比%)	165 1.6%	-211 -2.1%	-376	150 0.7%	-443
税前損益	404	-289	-693	280	-439
当期純利益 (売上高比%)	209 2.0%	-110 -1.1%	-319	140 0.6%	-112
EPS: 基本的(円)	10.87	-5.66	-16.53		
フリーキャッシュフロー	-1,292	-1,192	+100		
有利子負債残高	12,831	11,994	837改善		
Net有利子負債残高	8,103	7,862	241改善		
D/Eレシオ(倍)	1.8	1.4	0.4改善		
Net D/Eレシオ(倍)	1.1	0.9	0.2改善		
株主資本比率	18.1%	21.9%	3.8%		

\*Net有利子負債＝有利子負債－現金および現金同等物

## バランス・シートの状況

(億円)	<u>03/6</u>	<u>04/6</u>	<u>05/6</u>	<u>05/3</u>
総資産 (回転率)	39,834 (1.18回)	39,744 (1.24回)	<b>38,054</b> <b>(1.26回)</b>	39,407 (1.23回)
棚卸資産 (回転日数)	6,363 (49日)	6,695 (50日)	<b>5,844</b> <b>(44日)</b>	5,289 (40日)
有利子負債 (D/Eレシオ)	15,082 (4.0倍)	12,831 (1.8倍)	<b>11,994</b> <b>(1.4倍)</b>	11,562 (1.5倍)
Net有利子負債 (Net D/Eレシオ)	11,677 (3.1倍)	8,103 (1.1倍)	<b>7,862</b> <b>(0.9倍)</b>	6,619 (0.8倍)
株主資本 (株主資本比率)	3,786 (9.5%)	7,212 (18.1%)	<b>8,318</b> <b>(21.9%)</b>	7,943 (20%)

\*総資産回転率、棚卸回転日数は、期末残高、前12ヶ月売上ベース

\*\*Net有利子負債＝有利子負債－現金および現金同等物

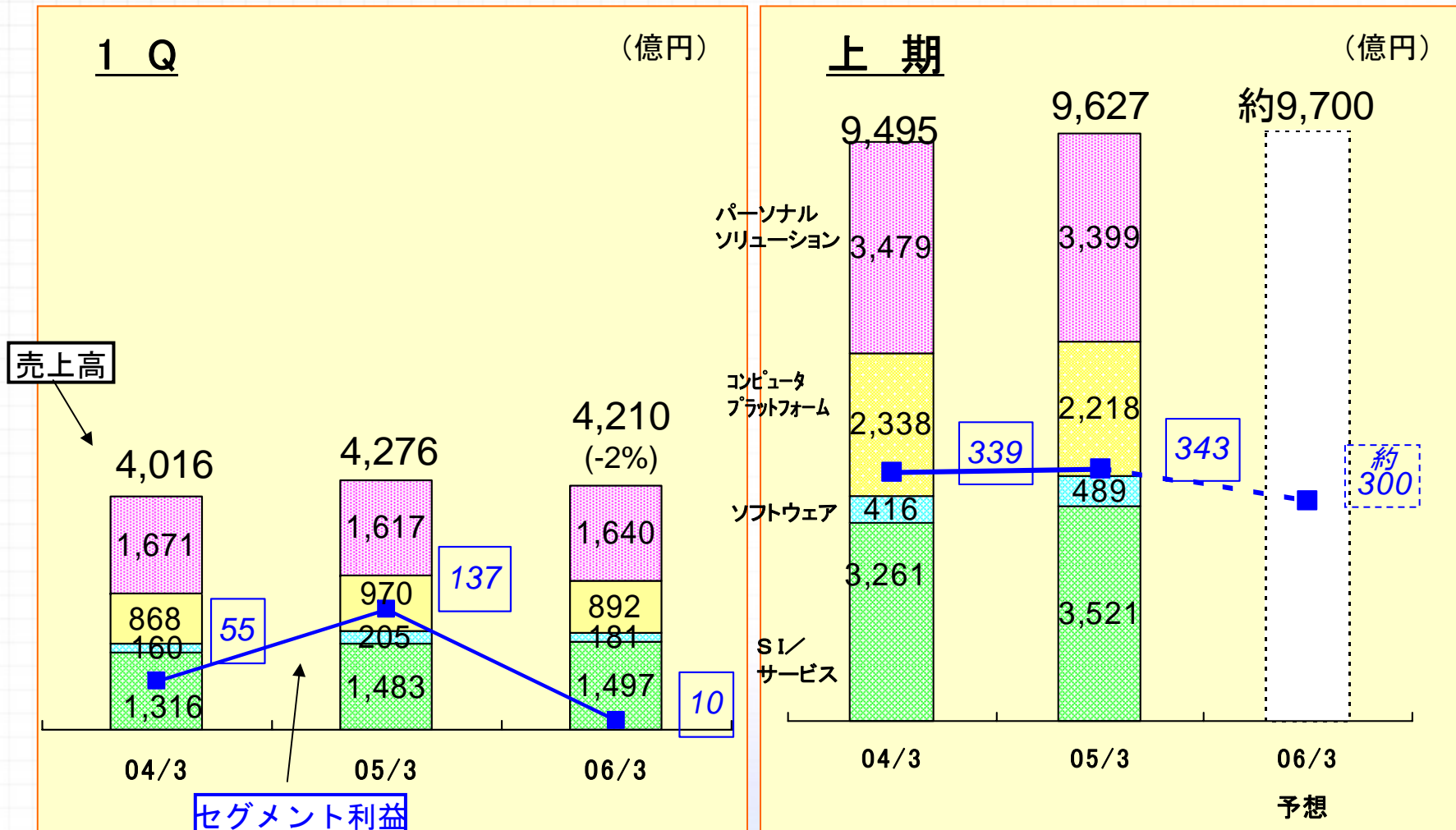


# セグメント別売上/損益状況

(単位: 億円)		1Q			上期			
		05/3期	06/3期		05/3期	06/3期		
		実績	実績	前期比	実績	予想	前期比	期初
ITソリューション事業	売上高	4,276	4,210	-1.5%	9,627	9,700	0.8%	9,700
	営業損益	137	10	-127	343	300	-43	300
	利益率	3.2%	0.2%		3.6%	3.1%		3.1%
ネットワーク ソリューション事業	売上高	4,007	3,794	-5.3%	8,999	8,400	-6.7%	8,400
	営業損益	109	31	-78	182	100	-82	100
	利益率	2.7%	0.8%		2.0%	1.2%		1.2%
エレクトロン デバイス事業	売上高	2,439	1,816	-25.5%	4,614	3,950	-14.4%	4,200
	営業損益	156	-98	-254	338	-80	-418	40
	利益率	6.4%	-5.4%		7.3%	-2.0%		1.0%
その他 / セグメント間消去他	売上高	-160	189	-	-208	450	-	200
	営業損益	-237	-154	-	-270	-170	-	-290
	利益率	-	-		-	-		-
合計	売上高	10,562	10,009	-5.2%	23,032	22,500	-2.3%	22,500
	営業損益	165	-211	-376	593	150	-443	150
	利益率	1.6%	-2.1%		2.6%	0.7%		0.7%

# ITソリューション事業の状況

～1Q：売上はほぼ前年並み。  
セグメント損益は減益も、期初想定を上回り黒字確保～



# ITソリューション事業の状況

## ■SI/サービス

- ◇国内市場環境は、引き続き厳しい
- ◇市場創造力とプロジェクトマネジメント力強化で期初計画達成を目指す

## ■コンピュータ・プラットフォーム

- ◇1Qは季節要因から若干の赤字も、想定比改善
- ◇堅調な数量伸長と原価低減で価格下落の吸収を目指す

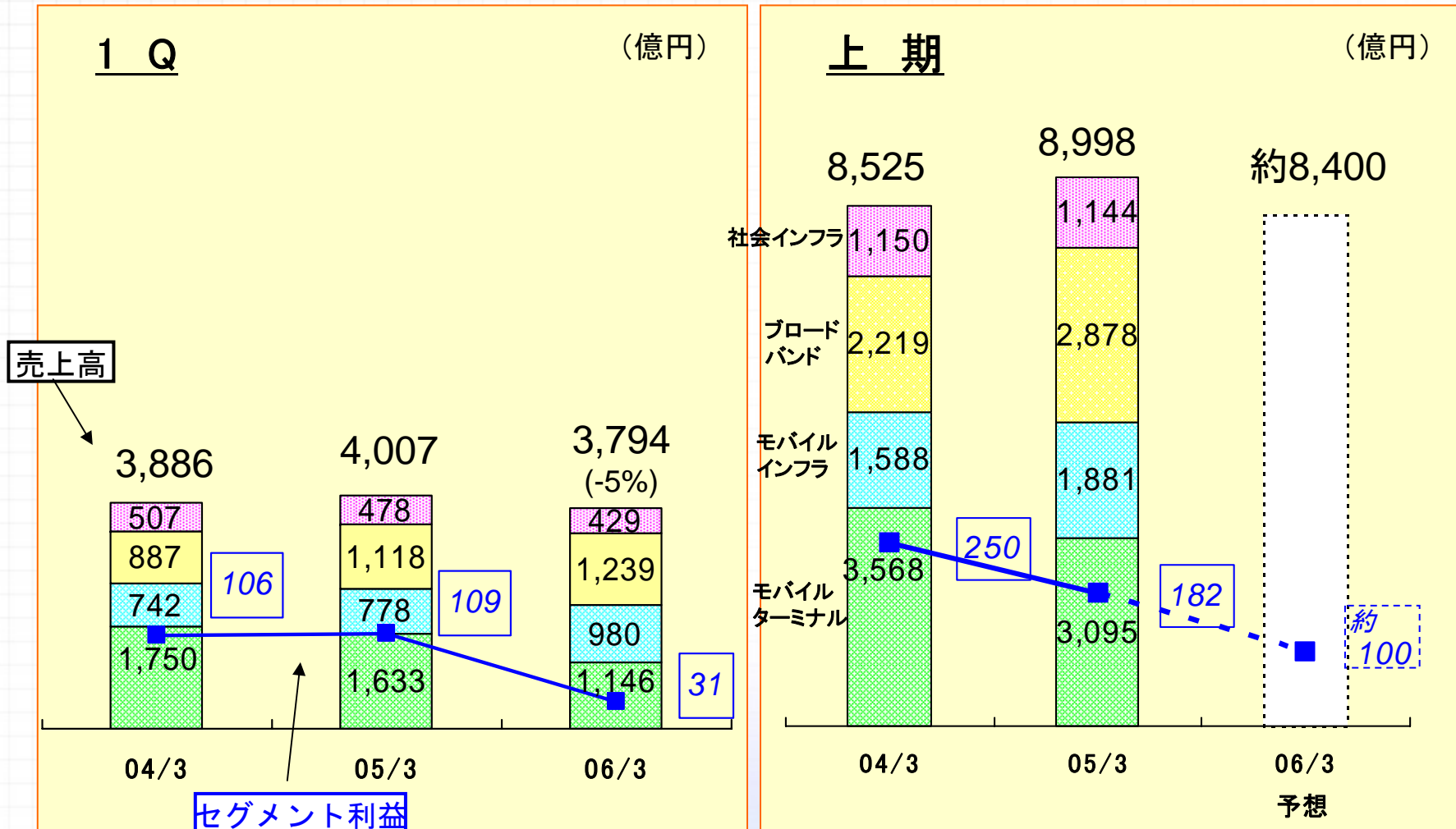
## ■パーソナル・ソリューション

- ◇国内出荷台数の伸長と原価低減により、1Qも黒字を確保



# ネットワークソリューション事業の状況

～1Qセグメント損益は減益だが、期初想定を上回り黒字確保～



## ネットワークソリューション事業の状況

### ■ブロードバンド事業は国内を中心に好調に推移

- ◇キャリア：光アクセスなどが前倒し気味に拡大
- ◇企業向け：UNIVERGEが順調に拡大

### ■モバイルインフラは好調持続

- ◇国内：さらなるサービス向上に向けた投資堅調
- ◇海外：3G・パソリンクが想定を上回って推移

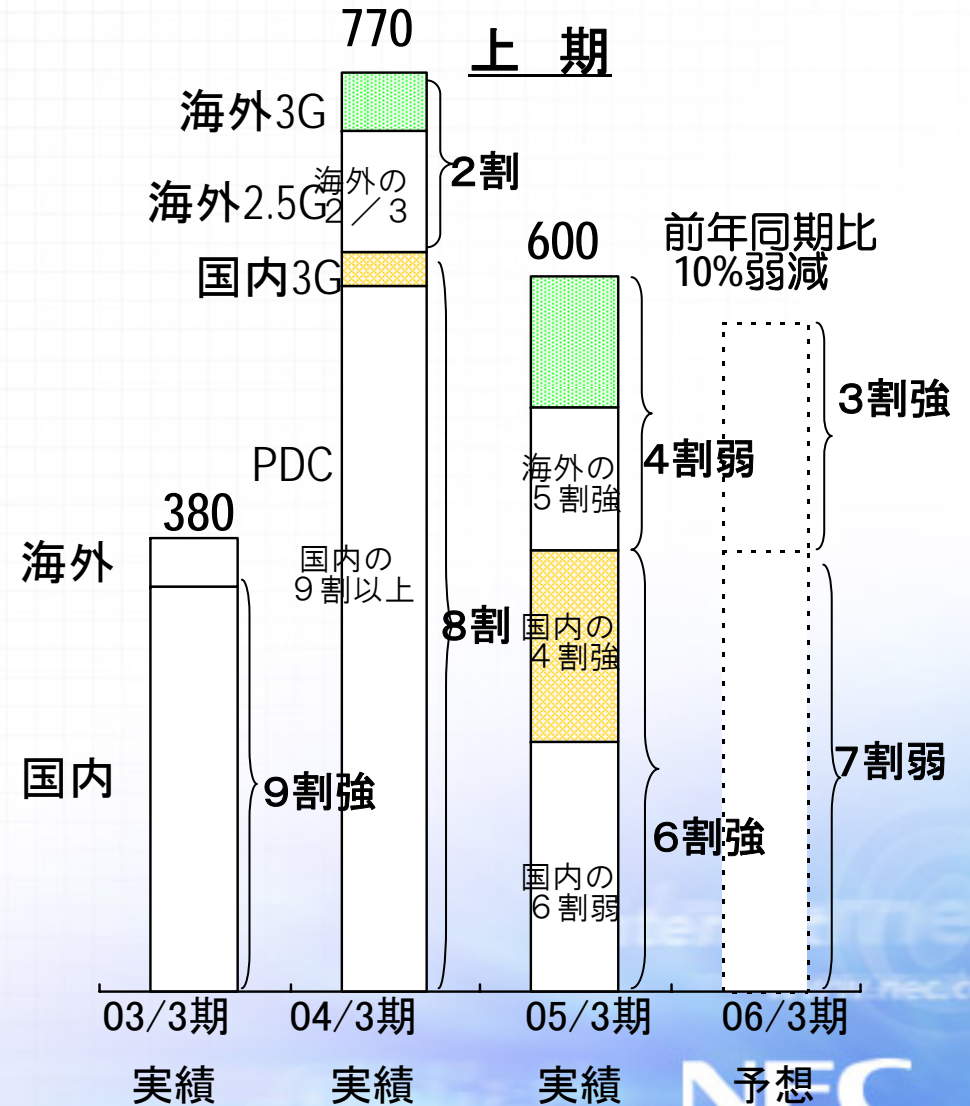
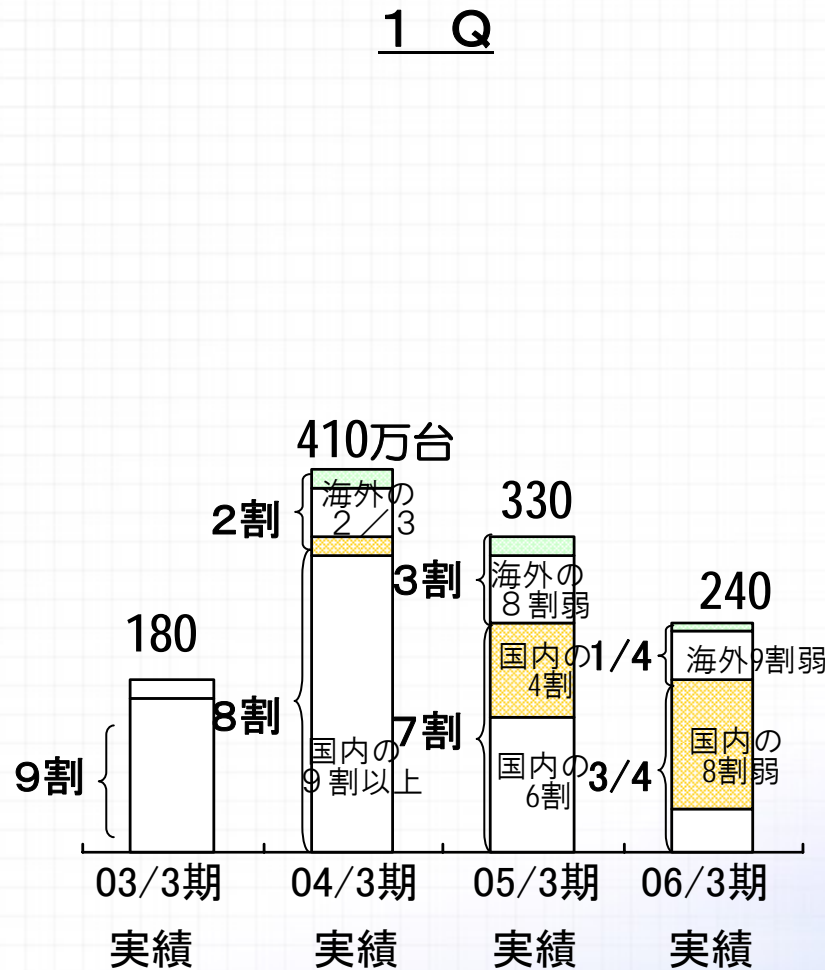
### ■モバイルターミナルは前年同期比出荷減も、損益はほぼ想定線

1Q出荷台数 240万台（約3割減）

- ◇国内：3GでPDCの減をカバーできず。  
N901iS（6/24販売開始）は予定通りの立ち上がり。
- ◇海外：他社PF採用 i モード3G端末出荷開始（6月）。  
価格低迷の影響等で2.5Gが苦戦。

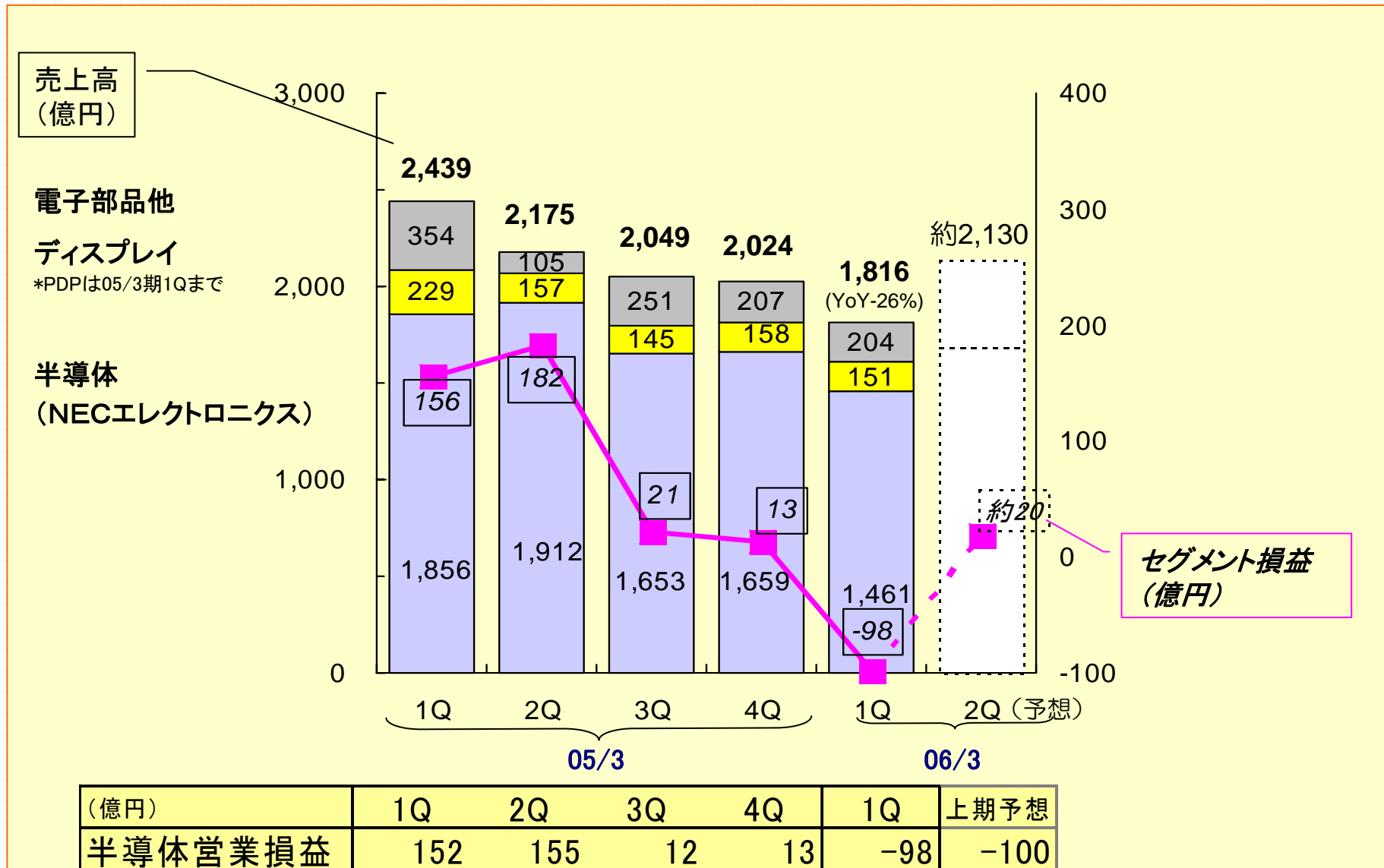
# モバイルターミナル出荷状況

## 携帯電話機出荷台数推移



# エレクトロニクス事業の状況

～1Q実績：半導体分野で売上高が前年度4Qに比べ減少し減益～



# エレクトロニクス事業の状況

## ■半導体分野

- ◇顧客の在庫調整は一段落も、需要は一進一退。  
回復の兆しが見られず。
- ◇1 Q実績（前年度4Q比）：
  - ・通信機器向け半導体や汎用マイクロコントローラが減収。
  - ・デジタル家電向け半導体は堅調に推移。
- ◇売上高を拡大する中期成長戦略を実行することで、収益性の拡大を図る。

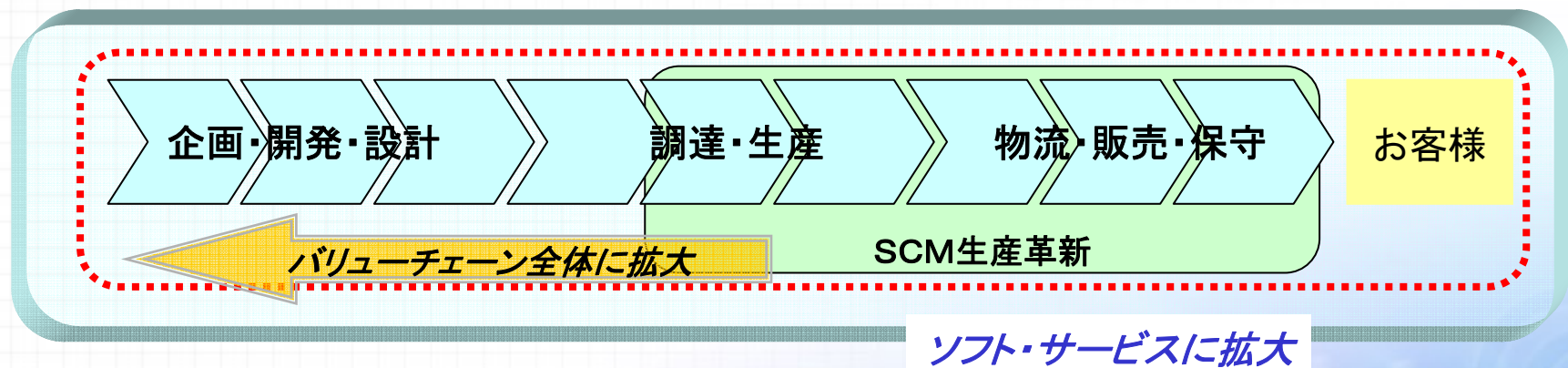
## ■カラー液晶、電子部品分野

- ・1 Q実績：堅調な出荷推移。

# ◆ 今期目標（営業利益1500億円）の達成に向けて

～トータルプロセス改革の遂行～

- ◇ 06/3期の重点的取り組み
  - 総資材費コストダウン
  - 付加価値の社内への取込み
  - ソフト・サービス事業体制強化による収益力強化
  - 生産革新をバリューチェーン全体に拡大



⇒ バリューチェーン強化を推進する「ものづくり革新ユニット」新設  
(2005.7.15)



Empowered by Innovation

**NEC**